# Monthly Report

# SENDAI UNIV. PUBLIC RELATIONS

Vol.160 / 2019.AUG

#### 自然を体験!南蔵王わんぱく・チャレンジキャンプ



記念写真

8月6日(火)~8月9日(金)に南蔵王わんぱくキャンプ(小学2年生~小学4年生対象)、8月17日(土)~8月23日(金)(小学5年生~中学3年生を対象)に南蔵王チャレンジキャンプを行い、テント泊に野外炊事、沢登りや登山など、野外活動を楽しみました。

このキャンプは、子どもゆめ基金の助成を受け、地域の青少年を対象として実施しており、生活や活動の指導は、本学の大学生と大学院生が行なっています。

今年は、8月17日(日)~8月19日(月)の2泊3日、本学が招聘している白石市・柴田町の東京オリンピック・パラリンピックホストタウン親善大使のセベツ・アリーナさんが南蔵王チャレンジキャンプに参加し、子どもたちと一緒に野外炊事に取り組んだり、沢登りやオリエンテーリングにも取り組みました。毎朝毎夕「今日のベラルーシ語」を教えてもらう時間やベラルーシのダンスを教えてもらったりしました。子どもたちもコミュニケーションを積極的にとり、気軽にスパシーバ(ありがとう)と言えるようになったり、たくさんの質問したりしていました。子どもや学生たちにとって、「野外」と「国際」という、2つの非日常を同時に体験できる貴重な機会となりました。



ベラルーシのダンスを体験



沢登りの様子

#### 〈目 次〉

<ul><li>自然を体験!南蔵王わんぱく・チャレンジキャンプ</li></ul>	1
<ul><li>・仙台89ERS 志村GM、落合ACによる勉強会を開催しました</li><li>・「スポーツ起業論」 0Gの武者喜恵さんが講師</li></ul>	2
・全日本インカレ 男子躍進3位、女子は7位/南、貫禄で床制覇 ・第24回全日本高校・大学生書道展に出品 及川和香さん(健福3年)が準優秀賞 ・「夏季海外留学・研修結団式、危機管理 研修会」を開催しました	ങ
・地域連携:全国小学生学年別柔道大会結果報告-熊田愛留が5位入賞- ・札幌市バレーボール教室・講習会 ・ベトナム女子サッカー代表チームとト レーニングマッチが行われました	4
・「法制執務の基礎」に関するSD研修会を 開催しました ・令和元年度SD研修会を実施しました	5
・子ども運動教育学科と柴田町船岡保育所 と交流活動を始めました	6
• 芝草通信 NO. 5	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.17	8

学生の活躍や、取り組みなどを ご存知でしたら広報室までお寄 せください。

Monthly Reportで紹介する 他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等が ありましたら広報室までご一報 ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp



## 仙台89ERS 志村GM、落合ACによる勉強会を開催しました







真剣に講義を聴く学生の様子

7月16日(火)、LC棟1階でスポーツ情報サポート研究会主催の勉強会を開催しました。この日の勉強会は、在 仙プロスポーツチームとのアカデミックパートナー協定および私立大学研究ブランディング事業の一環として行われました。ゲストスピーカーとして株式会社仙台89ERSから志村雄彦 取締役GM(以下「志村GM」)、落合嘉郎アシスタントコーチ(以下「落合AC」)をお迎えし、「バスケットボール競技」と「情報分析」をキーワードに 講義をしていただきました。

はじめに志村GMより、日本バスケットボールの現在地としてBリーグ開幕からこれまでの歩みをご紹介いただいた後、NBAサマーリーグを視察してテクノロジーの活用やプレーのデータ化が急速に発展していることなど、海外の事例もお話していただきました。情報の活用については、ご自身の経験も踏まえて「数値は客観的な指標として嘘をつかない」とし、「パフォーマンス向上にどのように活用するのかを考え、適切に取り扱うスキルが重要になる」と述べられました。

落合ACからは、仙台89ERSにおけるアシスタントコーチの役割をはじめ、スカウティング手法やバスケットボール競技におけるデータの着眼点をお話していただきました。相手チームの分析を行うスカウティングでは、チームまたは選手別に勝敗要因を分析していることや映像を用いたミーティング方法を紹介していただきました。また、試合を行う上で「データを知りプレーしているケースと知らずにプレーしているケースでは、パフォーマンスに差が生じる」など、選手もデータを理解することの大切さを伝えていただきました。

勉強会には、スポーツ情報サポート研究会に所属しアナリストや指導者を目指す学生をはじめ、男女バスケットボール部の選手、スタッフなど約50名が参加しました。参加した学生のひとりである倉茂涼さん(スポーツ情報マスメディア学科2年・男子バレーボール部アナリスト)は、「ミーティング方法ひとつとっても、プロチームの引き出しの多さに驚きました」と感想を述べました。参加者はプロスポーツチームの活動事例から、スポーツ情報分析のメソッドとシステム的対応について知見を深めました。

情報分析領域では仙台89ERSとの協定に基づき、9月開幕の2019-20シーズンから実践的な取組みが本格化します。今後の活動状況についても、本学ホームページ等で報告してまいります。

<報告:スポーツ情報マスメディア学科>

# 「スポーツ起業論」 0Gの武者喜恵さんが講師

7月27日 (木) はこの学科を2017年3月に卒業した株式会社クロステレビジョン東北支社制作技術課の武者喜恵さんを招いて、テレビ放送のカメラマンや大型ビジョンの業務などの仕事について話していただきました。

この中で武者さんは、「現在の仕事に就くことになったのは3年生の "スポーツ取材・報道実習II"で訪れた地元テレビ局で積極的に質問した ところ、担当者にやってみないかと勧められ始めたアルバイトがきっかけ だったと明らかにしました。

これに対して、学生から「カメラマンを目指して、大学の実習から流れるように就職したと聞き、そのような就職方法があるのかと驚いた」「今回の講義を受けて何事も積極的に動かないと道は開けないと思いました」などと感想が寄せられました。

<報告:スポーツ情報マスメディア学科>





0Gの武者喜恵さん



### 体操競技部:全日本インカレ 男子躍進3位、女子は7位/南、貫禄で床制覇

全国の大学生選手が集まるトップレベルの大会、第73回全日本学生体操競技選手権大会が8月20日(火)~22日(木)、山口市の維新大晃アリーナで行われ、本学は男子1部団体(トップ12校)で前回5位から3位に躍進しました。4位筑波大とはわずか0.150点の差でした。

前回1部(トップ10校)への再昇格を決めた女子も7位と健闘を見せました。

種目別は南一輝(体育2年)が男子床運動でG難度の「リ・ジョンソン」を決めるなど、14.900の高得点で初制覇。社会人を含めた全日本種目別王者としての実力を示し、東京五輪代表入りを目指して出場する今秋の種目別ワールドカップ(W杯)へ弾みを付けました。南は跳馬でも14.475点をマークし2位に入りました。男子鉄棒では青木翔汰(体育3年)が力強さと華麗な技を見せ、13.950点で3位にくい込みました。



全日本学生選手権で男女とも活躍を見せた仙台大 の体操陣=維新大晃アリーナ

このほか本学の入賞者は次の通りでした。

<男子床運動>6位松田光平(体育3年)14.050点、7位松見一希(体育4年)13.950点

<男子つり輪>8位山根直記(体育3年)13.700点

<報告:体操競技部>

# 第24回全日本高校・大学生書道展に出品 及川和香さん (健福3年) が準優秀賞

健康福祉学科3年生の及川和香さん(雅号:及川桜香)が第24回全日本高校・大学生書 道展に出品し、全出品点数10,402点の中で準優秀賞となりました。

8月5日(月)には遠藤保雄学長に報告を行い、及川和香さんは今回の結果を受け、「来年こそは大賞に選ばれるように頑張ります」と次の出品に向け、目標を話してくれました。



遠藤学長に報告をする及川和香さん

# 「夏季海外留学・研修結団式、危機管理研修会」を開催しました

8月8日 (木) に「令和元年度夏季海外留学・研修結団式、危機管理研修会」を開催しました。今回は2つのプログラム(アメリカ/ハワイ大学、中国/瀋陽師範大学)に8名の学生を派遣します。各プログラム毎に参加する学生全員から力強い決意表明がありました。

<国際交流センター>



頸椎表明を行う学生の様子



遠藤学長の挨拶の様子



#### 地域連携:全国小学生学年別柔道大会 結果報告-熊田愛留が5位入賞-

8月11日(日)に全国小学生学年別柔道大会が愛媛県武道館で行われ、今回 16回目となる本大会に、本学主宰の仙台大学柔道塾から、熊田愛留くんが宮城県代表として小学6年生男子50kg級に出場しました。

この大会は小学5年生以上の男女8階級で行われる個人戦であり、各階級、 全国から選抜された48名によってチャンピオンシップを争う大会です。

熊田選手は、昨年の2回戦敗退という悔しさを晴らすべく、初戦の一本勝ちで流れをつかみ、3勝の後に準々決勝戦へ進出しました。

メダル獲得を掛けた千葉県代表選手との試合でしたが、相手の巧さに持ち 味を発揮することができず、惜しくも敗退となりました。

5位という結果ではありましたが、本人にとっても今後の精進に貴重な経験となりました。

<報告:仙台大学柔道塾>



写真左から南條監督、熊田愛留選手

#### 男子バレーボール部:活動報告 札幌市バレーボール教室・講習会









バレーボール教室の様子

男子バレーボール部の中村祐太郎監督、安部祐馬コーチ、河野格大選手(体育学科3年)が8月4日(日)~8月6日(火)に北海道札幌市で高校生の男子バレーボール部を対象にバレーボール教室を行いました。

バレーボール教室では、実技講習のほか、運動栄養学科の真野芳彦准教授による「スポーツと栄養の関係性について」、スポーツ情報マスメディア学科の溝上拓志助教に「バレーボールと情報戦略の関わりについて」の座学講習も行われました。

3日間という短い期間でしたが、ICTを活用したフィードバックなどを取り入れながら、コーチングの技術を最大限に生かした指導で北海道のバレーボールの強化に貢献することができたと考えています。

今回の取り組みは、6月に札幌市で行われた東日本バレーボール大学選手権大会の時に、応援に来てくださった本学OBが、北海道に仙台大学をもっと広めたいと尽力してくださり開催されました。

参加した生徒からは実技だけでなく、栄養や情報戦略など「支えるスポーツ」も大変好評でした。

<報告:男子バレーボール部>

# 女子サッカー部:ベトナム女子サッカー代表チームとトレーニングマッチが行われました

8月2日(金)本学サッカー場でベトナム女子サッカー代表とトレーニングマッチが行われました。

ベトナム女子サッカー代表は福島市のホストタウン登録国で、東京2020大会 出場を目指し、来年実施されるアジア最終予選にも進出している強豪国です。

トレーニングマッチでは前半に本学が先制しましたが、後半に追いつかれ引き分けとなりました。

世界で戦うチームとの対戦は、本学女子サッカー部にとって、とても貴重な 経験となりました。



記念写真



#### 「法制執務の基礎」に関するSD研修会を開催しました







研修会の様子

8月1日(木)A棟2階大会議室で教職員対象の第1回SD研修会を開催し、16名が参加ました。

今回は学校法人朴沢学園の安倍寿広 常務理事兼法人事務局長を講師に迎え「法制執務の基礎」をテーマに大学 運営に関する法令等の基礎的な知識を修得し、学内規程等の作成・見直しに必要な資質を身に付けることを目的として研修が行われました。

参加者からは「引き続き法令や財務等について研修会を開催してほしい」等の声が多く挙がり、良い雰囲気の中、研修会が行われました。今後も教職員対象のSD研修会を継続していきますので、是非ご参加ください。

#### 令和元年度SD研修会を実施しました



朴澤理事長・学事顧問より訓示



ワークショップの様子

8月9日(金)10日(土)仙台秋保温泉・岩沼屋で「令和元年度学校法人朴沢学園SD研修会」がおこなわれ、初日は午前中に、朴澤理事長・学事顧問より「仙台大学付属明成高校が目指すもの」と題した訓示があり、午後から尚絅学院大学合田隆史学長を講師をお招きし、「教育改革の動向について」の講演を頂き、次いで明成高校佐藤浩二教頭より「高大接続教育を実現するための高校・大学の役割について」について研修を行いました。

2日目は三島法律事務所 三島卓郎 弁護士より「ハラスメントの防止のために」、日本経済新聞社 横山晋一郎様に「高等教育界を外から見て想うこと」について講話を頂きました。

本研修会は一昨年4月に「大学設置基準等の一部を改正する省令」が施行され、職員が大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上するための研修、いわゆる「SD」スタッフ・ディベロップメントが義務化となり、大学教育において、学生をどのように成長させるか、保護者の期待にどう応えるのか、どのような人材を社会に送り出すのか等々の多様なニーズに対応することが強く求められており、この求めに対応するために教職員の知識やスキル向上を目的とした研修会です。

学生が集まる、選ばれる大学・高校となれるよう、引き続き、教育内容、方法等の改善に積極的に取り組みながら、地域の知の拠点となることを目指します。



## 子ども運動教育学科と柴田町船岡保育所と交流活動を始めました

子ども運動教育学科では、保育の「知識」だけでなく、子どもと接する中で、実践を通した「経験」をより多く 積み重ね、「人として大切なもの」を育成し、魅力のある保育者を養成することを目標としています。

地元の船岡保育所との交流活動において、科目「全学教養演習」を受講する学生と保育所児との実践型交流授業を行いました。この活動は、今年度から行っており、大学側も保育所側も共に学びの場となるよう準備を進めてき

ました。



学生の模倣をするダンスが楽しめるように、学生がまず楽しそうに踊ること、そして、子ども達と一緒に踊ることが大切です。初めて子どもの前に立つ学生の緊張度はマックスです。事前に練習を積み、どういう風に子どもにおろせば初めてのダンスであっても楽しく踊ることが出来るかを考え、いろいろな指導方法の工夫を準備しました。

た。



「サーキットあそび」は幼児体育指導法の一つで短い時間の中でいろいろな動きを経験し、運動量をたくさんとることが出来る運動あそびです。乳幼児の「体を動かしたい」という生理的な欲求を満たすため、充分な運動量を確保し、情緒の安定をはかることが大切だと考えています。





乳幼児期は運動機能が急速に発達し、這ったり、跳んだり、バランスを取って歩いたりといった多様な動きを身に付けやすい時期です。多様な運動刺激を与えて、体内にさまざまな神経回路を複雑に張り巡らせていくことが大切です。それらが発達すると、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調整する能力が高まり、生活で必要とされる動きやとっさの時に身を守る動きなど人が生きていくうえで必要な運動能力を身に付けやすくなります。

サーキットあそびすることによって、 現代の子どもたちの成長にかかせない調整力をはじめ運動機能全般を高め、 尚且つ、好奇心や探究心を満たし、主体性の発揮にも寄与すると考えられます。こうした乳幼児期の特徴を配慮した体育あそびとして、自分の手足つまり四肢を自由にコントロールして、自分の身体を使いこなすコントロール性の獲得をねらいとして行っています。





しかし、運動となると、つい私たちは「出来た」「出来ない」とみて、一喜一憂してしまいがちです。確かに出来ないことが出来る様になることは嬉しいことではありますが、私たちが大切にしている保育の基本は、目ではみることができない「こころ」の育ちです。

サーキットあそびをしていると、次は何かなといった興味や関心を持った姿勢。また、初めての種目に消極的になったり、うまくいかなかった時の悔しい表情、難易度の違う種目のどちらかに迷っている葛藤の場面、友達同士の励まし合っている姿、失敗しても最後まで諦めないで取り組む姿勢、やってみようという等、「こころ」の育ちをみることがあります。目にはみえないこれから生きていく上での基礎となる土台、すなわち、土の中で育つ「根っこ」を育てることができる「サーキットあそび」をこれからも行っていきたいと思います。

<報告:子ども運動教育学科>



#### 芝草通信 NO. 5

担当:小島文雄体育施設管理コンサルタント

#### 1. 噴水まわり天然芝生の維持管理

8月3日のオープンキャンパスに合わせて、維持管理を進めてきました。施肥と草刈りのタイミングを調整しながら「軸刈にならず、伸び過ぎず」を注意しながら、青々とした密度の濃いグリーンを提供できたと思います。その後の経過を観察すると、肥料の効果が出過ぎた所もあるので、機会を見て芝刈りを実施します。

#### 2. 第二グラウンド天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の維持管理 【バミューダグラス生育状況】

7月の雨と気温低下で発育が遅れていましたが、8月に続いた高温により順調に成長してきました。一方、寒地型 洋芝は高温と水分不足により衰退してきました。ちょうど選手交代のように地表面を覆っていた芝生の草種が寒地 型から暖地型に変換してきました。この切り替えが大変困難であります。

養生期間を十分に確保できる競技場では除草剤を用いて寒地型を枯らしてから暖地型を生育するところもあります。

また、散水を意識的に少量にして寒地型の成長を弱めてから暖地型洋芝を旺盛にして切り替えるところもあります。いずれにしろ一時的に全面裸地状態になるので暖地型の発芽がある程度成長するまで長い養生期間を設けております。

本学のグラウンドは練習場として使用しておりますので、ほぼ毎日 (毎週5日間7回くらい)の利用が有り養生期間を設定しにくい状況です。それでも年に2回くらいは利用する各部活動の方々の協力で、2週間程度養生します。今年の7月初めは雨が多く、日照不足と温度低下で、発芽状況に影響が有り、やっと発芽しても成長が遅く、小さな芽 (芝草通信NO4の写真参照)しか認められませんでした。2週間の養生期間を3週間に延長して協力をいただきながら小さな芽を見るたびに頑張れと声をかけるありさまでした。春先に実施した寒地型洋芝播種の時は、養生期間なしの連続使用でしたので、発芽率は低下していると感じています。

5月から始めていた各部活動の学生による実習も2~3回行なったので、ほとんどの学生が芝刈り機の操作経験を積むことが出来ました。練習後のデイボット補修(スパイクで掘れた穴に補修用砂を埋め込む作業)も慣れてきました。必要な日常管理を学習して、成長のメカニズムをよく理解しながら、利用して欲しいと願っております。



〈写真 1〉ラグビー・アメリカンフットボール場 、全景 バミューダグラス占有率 約90%、8/26現在



〈写真3〉東南ブロック、接写 寒地型洋芝は茎葉が1本づつだが、バミューダグラスは 真横に多数の葉が出るので密度が濃い



〈写真2〉東南ブロック、接写 ほぼ全面バミューダグラスに切替わった



<写真4> 西北ブック、近景 左側、本日の剥ぎ取られた芝草:すぐに砂を掛ければ復活する 右側、前日以前に剥ぎ取られた芝草:放置されて乾燥しすでに 枯死している





# 「高校スポーツの安全を守る」Vol.17

担当:小野 勇太 助手

今年の夏も暑い日が続き、川平アスレティックトレーニングルーム(ATR)を利用する、明成高校特定研究指定部活動の生徒達は、それぞれの目的、目標に向けて日々練習に励んでいます。夏のニュース、「熱中症」という用語は一般化されつつある一方で、言葉を知っていても、発生後どのように対処すべきか、または予防すべきかについてはまだまだ専門家の介入が必要ではないかと思います。

我々川平ATRは、対象部活動向けに「熱中症予防」を目的とした講習会を開催し、高校生と指導者へ熱中症予防 教育を進めています。夏休みという期間は部活動に取り組む高校生にとって普段以上に時間と場所を確保できる ことなどから、強化時期としてとても重要な時期です。そんな高校スポーツ現場にとって厄介な問題と言えるの が、熱中症による重大事故です。

熱中症は、熱痙攣、熱失神、熱疲労、熱射病の総称ですが、軽度なものから重度なものまで症状は様々で、中でも熱射病については処置が遅れたり適切な処置が成されなければ命を落とすことさえあるため、要注意です。 発生後の対処は勿論現場の責任者である指導者の方々には身につけていただきたい内容でありますが、それよりも何より、「予防」が重要です。天候をコントロールすることはできませんが、天候をあらかじめ把握し、状況に応じて休息回数を増やし、十分な水分と塩分補給をすることや、身体が十分に暑さに慣れるまでは徐々に運動量を変化させること等ができれば、熱中症は予防できます。

川平ATRでは、スポーツ現場(明仙フィールド)の気温、湿度、暑さ指数(WBGT)を測定し掲示板に載せて、高校生達が日々それらの数字を見ることで、熱中症へのリスクを意識して活動するように注意喚起をしています。これらの甲斐あって、最大で気温34℃、WBGT31℃を超える日もありましたが、十分な休息と水分補給等の徹底により、本来であれば運動中止が必要な状況下においても練習を行い、かつ熱中症の発生を防ぐことができています。スポーツ傷害も熱中症同様に「予防」が重要です。

川平ATRではこの「予防」という観点を重視し、引き続き高校スポーツの安全を守る活動を広めていこうと思います。



WBGT測定(明仙フィールド)



休息時の水分補給をする様子